

ほけんだより

令和3年度 10月号

朝晩の気温は低く肌寒いですが、日中の子ども達は汗をかくほど元気いっぱい活動しています。気温差があり体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの服装は健康状態や天候に合わせて調整出来るようにしてみましょう。また、替え袋(ケース)の中の洋服も長袖、長ズボンの補充をお願いします。合わせてフード付きや紐付きの上衣は事故につながる危険があります。室内で着る服はフードや紐の付いていない物で登所して下さい。

〜〜8・9月の感染症情報〜〜

| | |
|-------------------------|----------|
| 8月：アデノウイルス(プール熱含む)・・・6名 | (あかちゃん組) |
| 突発性発疹・・・・・・・・・・2名 | (あかちゃん組) |
| 9月：おたふくかぜ・・・・・・・・・・1名 | (いるか組) |
| アデノウイルス・・・・・・・・・・1名 | (らっこ組) |

???突発性発疹とは???

急な発熱(40度近い高熱の時も!)が3~4日続き、熱が下がった辺りから発疹が出てきます。発疹は痒みを伴うことは殆どありません。突発性発疹はウイルス感染ですので必ず受診してください。



検診のお知らせ

《歯科健診》

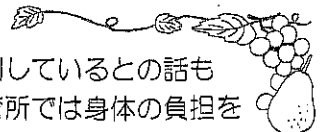
10月20日(水)に全園児対象の歯科健診を行う予定です。登所前の歯磨きと9:20までの登所、お願い致します。今年度も松井歯科の先生が保育園に来て下さっての検診となります。

《園医健診》

10月21日(木)に園医健診を行う予定です。今回は全園児が対象です。日にちが近くなりましたら改めて掲示等でお知らせします。問診票の記入の際、予防接種の打ち忘れがないか母子手帳の見直しも合わせてお願いします。

予防接種について

10月からはインフルエンザの予防接種も始まります。今年度は予約が殺到しているとの話も聞きますので早めにかかりつけ病院に問い合わせると良いでしょう。保育所では身体の負担を考慮して**昼帰りやお休みでの接種**をお願いしています。



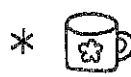


保育所からのお願い



～入所時にも説明した事柄ですが改めて～

- ・病院で処方された内服薬を持ってくる時は安全の為、**1回分ずつ**にして下さい。
- ・薬（軟膏や目薬、内服薬）は**保護者から保育士**に手渡してください。
- ・朝には症状が改善していても**前日に下痢や嘔吐などの体調不良**があった場合は保育士に**必ず知らせて下さい**。*
- ・顔色、食欲、機嫌など「いつもと違う？」に気付いたら、忘れずに保育士に伝えて下さい。
- ・保育所での誤薬予防の為、病院で薬を処方される時に「朝・晩の1日2回」で処方してもらえるように相談してみてください。*
- ・週末や長期休み中に感染症になった場合は 登所時、必ず保育士に伝えて下さい。
- ・座薬等の熱冷まし（解熱鎮痛剤）使用後の解熱は一時的なものです。解熱剤**使用後24時間**は**家庭保育にご協力ください**。あわせて、熱が下がっても24時間（平熱で1日中）経過しなければ登所出来ません。



10月10日は目の愛護デー

眼の病気や感染症は、物を見る時の様子や充血・目ヤニなどでわかることがあります。いつもより、子どもの眼をよく観察するようにしてみませんか？

目ヤニや充血、涙目はかぜや感染症のサイン

子どもは涙が眼から鼻に流れる涙鼻管が狭いため、頻回に目ヤニが出ますが急に目ヤニが増えた、眼がいつもよりウルウルしている、寝起きに眼が開かない、眼を痒がる等、いつもと違う時は早めに受診しましょう。眼の病気は細菌やウイルスによる感染症の場合と、視力など眼自体の機能的な病気の場合があります。どちらも軽いうちに見つけて治療することが大切です。

目ヤニや涙目がみられる病気の代表的なものを紹介します。

《結膜炎》

ウイルス性結膜炎は風邪に伴うものや、ウイルスが原因の感染症からくるものなどがあります。どちらの場合も受診し人にうつらないかどうかを確認して下さい。特に流行性角結膜炎（はやりめ）は感染力が強いので、目ヤニが出ている間は登所出来ません。また、アレルギー性結膜炎は痒みを伴うのが特徴です。原因物質（ダニやハウスダスト）を避ける事は難しいので、症状を緩和する薬を処方してもらいましょう。

《鼻涙管閉塞症》

新生児の6～20%にみられ、乳児の目のうるうる・目ヤニの原因になっています。鼻と眼は鼻涙管という管でつながっていますが、ここが生まれつき塞がっていたり、狭くなっていて涙がきちんと流れない疾患です。うるうるした状態が続くと視力に影響する恐れがあります。

《逆さまつ毛》

まつ毛が内側に向かって眼球に接触している状態。眼球の表面に小さな傷が出来易く、充血・目ヤニ・涙が多いのが特徴です。成長に伴って自然に治ることがありますが、眼科を定期的に受診して眼球に傷が無いかをみてもらうと良いでしょう。

